

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 105

江戸川区立平井東小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年		第6学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+2.0	+2.0	+2.0	令和8年度の目標	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0
令和7年度の結果	-0.1	+0.8	+0.7	令和7年度の結果	+0.9	+2.5	+5.0	+3.5	+2.0	+9.9	+4.1	+8.7
令和6年度の結果	+0.4	+0.9	+1.3	令和6年度の結果	+0.7	+1.8	-1.6	+2.9	+1.5	+5.7	+5.6	+10.2
令和5年度の結果	+1.0	-1.2	-0.2	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容	成果と課題		目標	
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4年生以上は、昨年度より算数でのA層の割合が増えている。 ○国語もB層の割合がほぼ同等か、増えている。 ○全ての学年が教科総合で全国平均を上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査では、国語の「読むこと」の領域に課題が見られる。 ○学年によって平均を下回る読点・領域がある。 ○国語の方が全国平均との差が小さい。 	<p>○各学年の苦手な観点・領域を克服する。</p>	<p>○各学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研究やOJTを通して、授業を見合い、研究主題を実現していく。 ○ミライシードのA1機能を使ったドリルパークに取り組み、一人ひとりにあった演習問題に取り組む。 ○学力向上の時間を活用して、苦手な単元に取り組んでいく。 	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読解委員会を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて読むことができる。 ○家庭学習やドリルパークで繰り返し練習し、ミニテストを行うことで、ほとんどの児童が漢字の定着が見られた。 ○具体物の操作などを丁寧に指導したことで、9割の児童が繰り上がり、繰り下がりがある計算ができる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の意味を考えて、文章に書いてあることを正確に読み取ることが練習が必要である。 ○国語を使って、自分の考えを表現できない児童がいる。 ○1割程度の児童が繰り上がり、繰り下がりのある計算に苦手意識がある。 	<p>○書いてある文章を手掛かりに、文章を正確に読み取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図、式、言葉を用いて、自分の考えを表現できるようにする。 ○苦手な児童も含め、基礎計算に自信をもつ。 	<p>○主語と述語「誰が何をした」を丁寧に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の気持ちを考える活動では、書いてある言葉を手掛かりに考えさせる。サイドラインを引かせ、大事な言葉な言葉に着目させる。 ○課題を自己解決→交流を行う。その際、テープ図や○図など繰り返し使い定着させる。 ○基礎基本につまずきのある児童には、具体物を使ったスモールステップの反復練習を行う。 	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音読を丁寧に指導したことで、8割の児童が語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて読むことができる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科の「九九検定」では、正確に九九を唱えることができない児童が1割程度いる。 ○定規を使って、直線をかいたり、長さを読み取ったりできない児童が2割程度いる。 	<p>○書いてある文章を手掛かりに、文章を正確に読み取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図、式、言葉を用いて、自分の考えを表現できるようにする。 ○苦手な児童も含め、基礎計算に自信をもつ。 	<p>○各教科でお世話になった方々に手紙を書くことなどを取り入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。 ○算数科では、定規や三角定規の正しい使い方を指導し、活動の時間を確保して操作の定着を図る。 	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、算数ともに、全国平均を上回り、全体の半数の児童がA層、B層にいる。 ○算数では観点別にみても、ほぼ全国平均を上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では、「言葉・情報・言語文化」と「話すこと聞くこと」についてが全国平均をわずかに下回っている。 ○算数では「図形」の領域がわずかに全国平均を下回っている。 	<p>○国語の「知識・技能」の正答率を80%にする。</p> <p>○算数の「数と計算」と「図形」については、正答率を80%にする。</p>	<p>○読書活動をすすめて、語彙を増やしたり、文章の読解力を養ったり、音読に取り組んだりすることで「言葉・情報・言語文化」や「話すこと・聞くこと」の正答率を上げる。</p> <p>○算数の少人数指導を続け、とくにD層の児童の指導をきめ細やかにする。</p>	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、算数ともに、A層、B層の児童が増え、A層B層の割合が全体の半分に増えた。 ○国語、算数ともに、観点別にみても全国平均を上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では、C層が減ったが、D層の割合が変わらない。 ○算数でも、C層が減り、D層の割合がほとんど変わらず少し増えてしまった。 	<p>○算数の「測定」の正答率を60%にする。</p> <p>○D層の割合を20%以下を目指す。</p>	<p>○算数での少人数指導を続け、特にD層の児童の指導をよりきめ細やかに対応する。</p> <p>○算数での「測定」の正答率を上げるため、月に1回の学力向上や水曜チャレンジの時間を活用して練習問題に繰り返し取り組ませる。</p>	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数はA層、B層の児童が増え、A層の割合が約2倍に増えた。 ○特に総合力よりも、基礎、応用の力が伸びた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では「書くこと」の領域が東京都平均を下回っている。他の領域と比較しても圧倒的に低い。 ○国語のD層の割合が増えた。 	<p>○国語の「書くこと」の正答率を50%にする。</p> <p>○A、B層の割合60%を目指す。</p>	<p>○月に1度の学力向上の時間に、学級内の苦手領域を解説し練習問題に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では「書くこと」の正答率を上げるため、ノート指導をくり返し行う。 ○算数では引き続き少人数指導を続け、単元によって人数を増減したり分け方を変えたりし、児童一人一人にあった指導をしていく。 	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学習・学習状況調査では国語、理科が全国平均を上回り、東京都平均と並んだ。 ○全国学習・学習状況調査では算数が全国、東京都平均のどちらも上回った。また、学習指導要領の領域ごとの正答率も、全ての領域で上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では「読むこと」の領域が東京都平均を下回っている。 ○理科では「エネルギー」「粒子」「生命」の領域で東京都平均を下回っている。 	<p>○全国学習・学習状況調査における国語、理科で東京都の平均を上回る。</p> <p>○全国学習・学習状況調査における算数で正答率を上げる。今年度は東京都平均比較+4ポイントなので、+5ポイントを目指す。</p>	<p>○算数においては、火曜6時間目に設定されている学力向上の時間に学級全体での苦手領域の解説を行う。また、個人の課題に取り組む時間も設け、個別指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数少人数指導の中で個別的に解説が行えるよう、クラス編成の人数を調整する。 ○国語では「読むこと」の正答率を上げるため、水曜日の朝学習の時間に行っている「読むよむワークシート」を有効活用する。 ○理科では日常の授業を大切に、実際の結果と練習問題の内容がどのように繋がっているのか、授業内で解説する。 	